

広域的な意見

沿線地域だけではなく、広域の市民や団体に対してもアンケート調査やヒアリングなどを実施し、ご意見をうかがいました。広域のみなさんから出されたご意見は以下のように捉えました。

1. 外環の必要性について

- 都市部の慢性的な交通渋滞に対する不満や環境問題から、外環の早期整備を求める意見が多い。
- 経済団体や運輸団体は、首都圏の道路整備に関し、外環をはじめとする三環状道路の整備を求めている。
- 渋滞以外の視点として、物流や防災の観点から高速道路は必要であるとの意見がある。
- 今後の人口減少や財政状況を考えると整備費用や料金設定が心配であるとの意見があり、コスト削減や料金についても検討し、示していく必要がある。

2. 計画の内容について

- 大深度地下方式とすることを評価する意見が多い。

3. 環境について

- 外環の整備は必要であるが、地元の環境に配慮して慎重に検討を進めるべきとの意見を踏まえて、今後、環境影響評価等を行い、環境保全等についても検討を進めていく必要がある。

4. 進め方について

- 当初の計画から時間がかかりすぎであるとの指摘を踏まえて、今後は時間管理を念頭においた上で検討することが重要である。
- 情報が提供され、意見を述べる機会があることは評価できるなど、PI方式で検討を進めていくことが評価されている。
- 国民一般に広く情報を提供すべき、沿線住民以外の道路ユーザー等の意見も聴くべきとの意見が出され、広域的な情報提供と意見把握が必要である。
- 影響を受ける沿線住民との対話が重要であるとの意見や、広く意見も聴くべきとの意見がある一方で、全ての意見や要望を反映させることは不可能であるので早く行政が決めるべきなどの意見があり、PI手法や、意見の反映方法を引き続き工夫していく必要がある。

<広域的なアンケート調査>

広域のみなさんに対して、国土交通省と東京都及びその他の団体がアンケート調査を実施しています。各種アンケート調査の主な結果は以下の通りです。

(社)日本自動車連盟が平成17年7月に行った高速道路の渋滞に関するアンケート調査では、約78%の方が、渋滞対策として、おもに都市部の高速道路で、環状道路などの迂回機能を整備することが有効であると回答しており、外環をはじめとした迂回機能を持つ環状道路の整備が期待されています。

平成17年8月に東京駅で開催された「減らそう！CO₂ 人間の移動と環境展」(毎日新聞社主催)で実施したアンケートでは、CO₂削減のために渋滞を減らす道路整備や自動車の技術開発をすべきと約46%の方が回答しています。

また、約62%の方が、外環をできる限り早く整備し、都内の渋滞状況や環境を改善してほしいと回答しており、外環整備による大気環境の改善効果に期待が示されています。

国土交通省と東京都が平成14年10月に実施した首都圏の社会資本整備と外環に関するアンケート調査(第2回)では、約74%の方が外環を整備して高速道路のネットワーク化を図るべきと回答しており、外環整備に対する強い期待がうかがえます。

また、約53%の方からPI方式で検討を進めることは評価できるとの回答を頂きました。

<経済団体等からの要望>

(社)日本経済団体連合会からは、首都圏三環状道路の早期整備を望む要望書が出されており、「東名高速道路から東北自動車道まで繋いで、わが国の高速道路ネットワークの枢要部を形成するには、外環道のうち計画が著しく遅れている関越・東名区間の整備を進めることが重要であり、緊急に都市計画を策定し、直ちに事業着手すべきである」としています。

この他に、東京商工会議所や(社)全日本トラック協会、(社)東京都トラック協会、(社)日本自動車工業会などからも首都圏三環状道路の整備促進等を求める要望書が出されています。

